

スズキ、SUBARU、ダイハツ、トヨタ、マツダ、次世代車載通信機の技術仕様の共同開発に合意

- より安全で快適なコネクティッドサービスの早期提供に向け、通信システムの共通化を推進 -

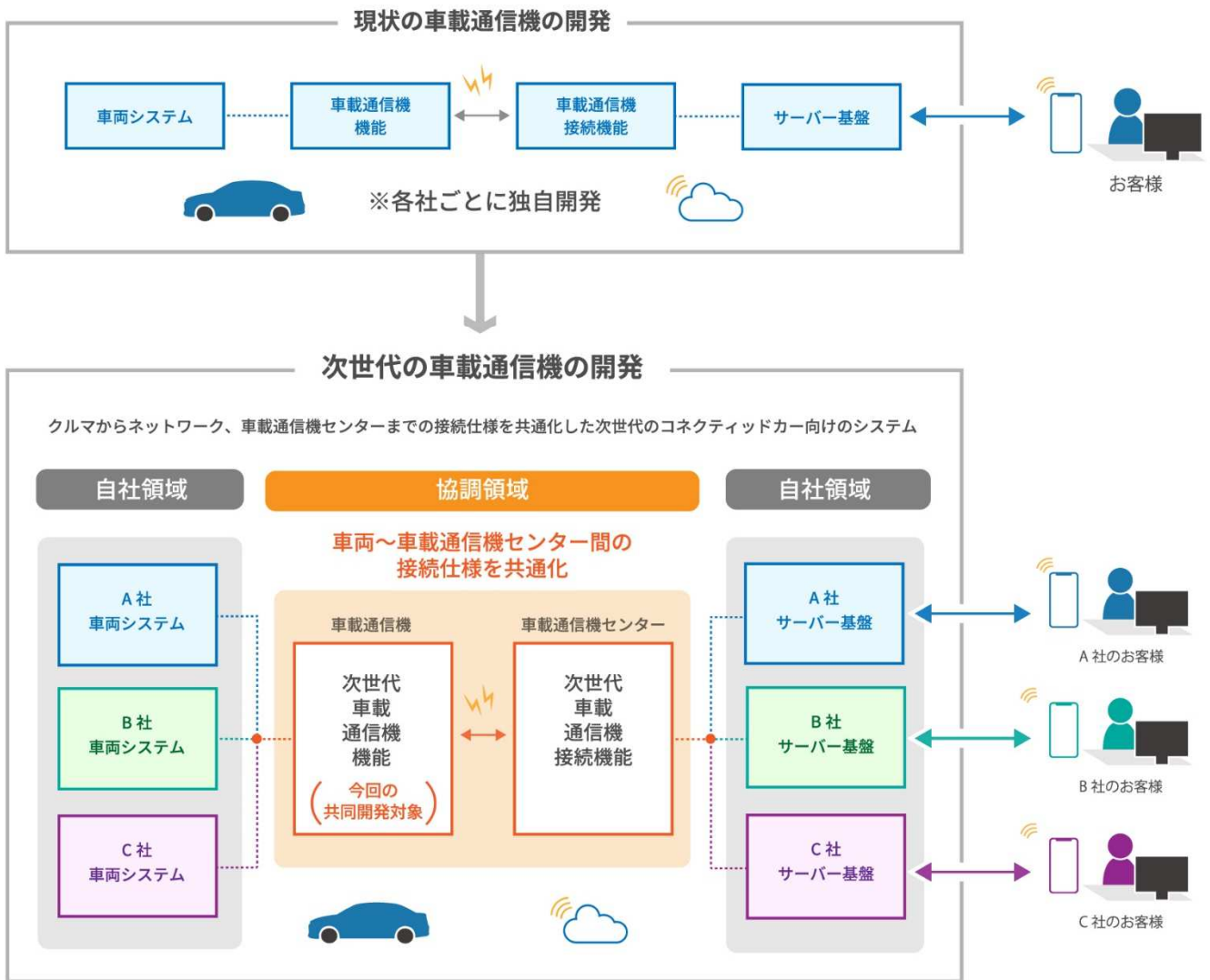
2021年4月27日
スズキ株式会社
株式会社 SUBARU
ダイハツ工業株式会社
トヨタ自動車株式会社
マツダ株式会社

スズキ株式会社（以下、スズキ）、株式会社 SUBARU（以下、SUBARU）、ダイハツ工業株式会社（以下、ダイハツ）、トヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ）およびマツダ株式会社（以下、マツダ）は、より安全で快適なコネクティッドサービスの早期提供に向けて、5社で次世代の車載通信機の技術仕様を共同で開発し、通信システムの共通化を推進することに合意しました。

現在、自動車産業に大きな変革をもたらしている CASE と言われる領域の中で、コネクティッド領域については、クラウドサービスや IoT、ビッグデータ、AI 等、通信やデータ側の技術や事業が急速に発展してきています。一方で、車載通信機の開発は自動車各社がそれぞれ取り組んでいることから、例えば、遠隔操作機能など、同じコネクティッドサービスを提供する場合でも、各社ごとに異なるアプローチでリソースを投入し開発を進めています。

この状況に対して、お客様により安全で快適なコネクティッドサービスを早期に提供するためには、「つながるクルマ」の基本機能である車載通信機の開発を協調領域、アプリケーションやサービス面での開発を自社領域と位置づけ、車載通信機の開発の効率化・加速化を実現することで、その共通基盤上でのアプリケーションやサービス面での開発に、より各社が力を注ぐことが可能になると考えています。

今回は、トヨタが開発した車載通信機技術をベースに、スズキ・SUBARU・ダイハツ・マツダが保有する技術を盛り込みながら、クルマからネットワーク、車載通信機センターまでの接続仕様を共通化した次世代のコネクティッドカー向けのシステムを構築する予定です。これにより、車両と車載通信機センター間の通信品質がこれまで以上に安定し、お客様とオペレーター間の通話がよりクリアに、接続スピードもより速くなるなど、お客様により快適なコネクティッドサービスを提供するとともに、各社の開発工数を低減し、システム運用や機能追加を含むバージョンアップなどを簡素化することで、設備や人員などリソースの最適化を図っていきます。



(コネクティッドサービス運用のイメージ図)

スズキ・SUBARU・ダイハツ・トヨタ・マツダの5社は、今回合意した共同開発に対して、志を同じくするその他のパートナーとの連携についても、つねにオープンに検討しながら、今後も人々の生活を豊かにするサービスの開発や社会課題の解決に引き続き取り組んでいきます。